



今日迄強し関心の存  
し何處かきかき心胸  
も若し若しと決一と自覚  
は心の心魂を修し心魂  
関心をすむる事とす公  
の詰り年所謂「床頭」  
後轉じて深更「清浄」  
微燈夢不成」と秋  
懐の綿をなすものも  
今更年と直ぐ井上  
後六年といふは不自由を  
かへし勝程の活潑を  
恒も信じて居る事  
電光石火といふに  
ハナハナと身不随  
今日、今朝の如く  
何れも是れは多年の  
自ら正見を備へた  
人故に之を思ふ  
刺也直ぐとあるが如  
く月日の歩む如  
き無稽の活潑なる  
今の生活の如く  
関心と心魂を修し  
其後、心魂を修し  
廣く深しと修し  
心魂を修し、心魂を  
関心の心魂を修し  
一徳の徳一徳の徳  
爾更綿と心魂を  
至誠の心魂を修し  
以上此の時ある事  
外、心魂を修し、  
根柢を修し、心魂を  
リ、心魂を修し、心  
心魂を修し、心魂を  
内、心魂を修し、心  
外、心魂を修し、心  
心魂を修し、心魂を  
心魂を修し、心魂を

望月小太郎書簡 大隈重信宛

大正3年10月20日

早稲田大学図書館蔵/Waseda University Library

I14-B299 -3

